



会長
宮崎 貞克
(八幡社 宮司)

佐賀県神道青年会
睦 霊
第 2 1 9 号

会 報
令和元年 5 月 1 日
佐賀市川原町 2 - 2 7
佐賀県神社庁内
佐賀県神道青年会
編集部

奉 祝
天 皇 陛 下 御 即 位
令 和
新しい御代をお祝いしましょう

【会長就任挨拶】

先づ以て謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げ、神宮に於かれましても諸祭恙なく齋行されておられますこと、慶賀に存じ上げます。

平素より当会の活動に關しましてご協力賜り厚く御礼申し上げます。

去る平成三十一年三月の臨時総会におきまして宮田彩子会長の後任として選任いただきました。歴代会長が築かれたした伝統と歴史を考えますとその責務の重さを痛感いたしますと共に身の引き締まる思いがいたします。その功績に恥じめぬよう努めて参る所存です。

昨年度まで宮田会長のもと事務局長として二年間務めさせて頂きました。この二年間を振り返ってみますと、天皇陛下御即位三十年奉祝事業、創立七十年記念事業、西日本豪雨災害復興支援活動、研修会と大変有意義な二年間であったと感じております。

そして本年は御譲位により新帝陛下が御即位遊ばされ、御代替に關わる様々な重儀が齋行されます。この佳節にあたり神武創業より悠久の時の中で受け継がれてきた継承の儀式に対する、正しい知識と認識を改めて学ぶ重要な機会である

と思ひます。正しく学ぶことは御代替への思いを深めることであり、それはまた国民へその意義を伝え、共有する力となるからです。揺るぎない伝統を受け継ぎ、人々に伝えていくことが我々青年神職の責務です。新帝陛下御即位に際し、奉祝する気運を高めていけるよう会員一同力を尽くして参ります。

諸先輩方に於かれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、また会員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。



会長退任のご挨拶

陶山神社
禰宜 宮田彩子

平成二十九年の七月から出航していた佐賀神青宮田丸がやつと船長交代の為にこの三月に帰港致しました。

思えば出航準備に手間取り、四月の出航予定が七月にずれ込

んだことから始まりました。そんな出発だったので、難航が軽く予想されましたが、この船には幸いにして優秀な副船長、機関長、また気のいい乗組員が乗っていました。船長はいいように言えばみんなの思いを聞きたいという気持ちが先行するタイプ。まあ端的に言えば決断の遅い人。と思えば、自分の意見をバチツと言ったり。そんな船長の船なので、船はあつちにふらふら、こつちにふらふら。船

員達は船酔いもひどかったはず。そんな船の舵取りをしてくれたのが機関長（事務局長）。彼はずっと船長の近くにいて、私と乗組員の意見を上手く調整し、船の軌道をしっかりと整えてくれました。しかしながらこの宮田丸。この二年間で色んな冒険を体験してきました。子弟の集いでは子供達の純な心に触れ癒やされたり、田んぼの行事では地域の方々とふれあったり。また時に

は何と神社庁の理事さん達との意見交換会という戦（？）も行い・そしてなんと行っても最後の船出は皇居勤労奉仕ということで大八洲の中心に向かい、両陛下、皇太子様の御会釈を賜るといふ栄誉までいただきました。座礁しかけたことも、船酔いなどに苦しんだことも、みんなどうにか力を合わせてこの港にたどり着いたのだと思います。

次の船長には「頼れる機関長」の宮崎君が就任しました。宮崎君は先も申したように二年間ほぼ船を動かしてきた人です。そして彼は山育ちの私と違い、元々海の男です。船には慣れていきます。皆さん安心して船にお乗り下さい。船員達は新たな船長に



これまで通り、いや、これまで以上に協力してください。そして、今まで船に乗ってなかった、乗りそびれていた人もこの宮崎丸には是非、乗船してください。まず船に乗らないと冒険は始まらないし、成長もしません。若い時代に仲間と一緒に「色んな体験をする」と、そして「絆を深める事」がこの先の人生の一番の財産になると思っております。佐賀の乗組員はまだまだいるはず。自分が乗れる時期の航海だけでもいいので、一回ちょっと乗ってみてください。きっと新しい出会いが待っています。

最後になりましたが、不肖でありながら生意気ばかり申した会長を最後まで許し、支えてくださいました会員、神社庁の皆様方、また県内、県外の神職様方、そして家族に厚く御礼を申し上げます。

また、今後とも佐賀県神道青年会に対しましては、御指導御鞭撻下さいますよう、お見守り下さいますようお願い申し上げます、退任のご挨拶とさせていただきます。
二年間本当にありがとうございました。

卒会会員紹介

氏名 石丸 正和
生年月日 昭和四十九年二月十七日
奉務神社 福宜
鎮座地 佐賀市諸富町

氏名 重藤 薫範
生年月日 昭和四十九年一月十三日
奉務神社 鏡神社 宮司
鎮座地 唐津市鏡

氏名 井崎 求
生年月日 昭和四十八年二月十一日
奉務神社 大江神大宮 禰宜
鎮座地 杵島郡江北町

新入会員紹介

氏名 落合 洲造
生年月日 平成五年七月十三日
奉務神社 佐嘉神社 権禰宜
鎮座地 佐賀市松原

氏名 富崎 則匡
生年月日 平成七年十一月八日
奉務神社 佐嘉神社 権禰宜
鎮座地 佐賀市松原



青 佐賀県神道青年会 70周年記念事業

皇居勤勞奉仕

伊萬里神社

権禰宜 加志田崇嗣

二月十八日から二月二十三日に行われた佐賀県神道青年会の企画「皇居勤勞奉仕」。平成が終わろうとするこの年に皇居を清掃することになることは、人生どんなことが起こるかかわからないものである。「佐賀県神道青年会勤勞奉仕団」という名前の団体は、佐賀県神道青年会員を含めた各地域の方々や熊本の方々を含めた二十九名程度で構成されており、おそろいの上着を着た奉仕団である。平均年齢はやや高めと、団の中で一番の若手である私一人の年齢では平均年齢は下げることができない。しかし、自身の年齢より上の方々との交流というのはなかなか聞

けないような話も聞けて楽しいものだ。

この皇居勤勞奉仕は赤坂御用地と皇居内のエリアをそれぞれ別れて清掃するのだがどうやら初日が赤坂御用地で残りの期間は皇居エリアだそう。ちなみに、過去に参加したことのある方によると前は四回中二回が赤坂御用地の清掃だったらしい。一回というのが非常に珍しいようだ。十九日の赤坂御用地では皇太子殿下のご会釈があり普段は感じることのできない独特の空気感を感じた。ご会釈が終了すると清掃となりそれぞれ決められた場所に割り当てられる。普段から掃除に慣れているわれわれと様々な経験をされている団員の皆さんが力を合わせると決められた範囲の清掃が時間より早く終わりどんどん範囲を広げていく形になった。

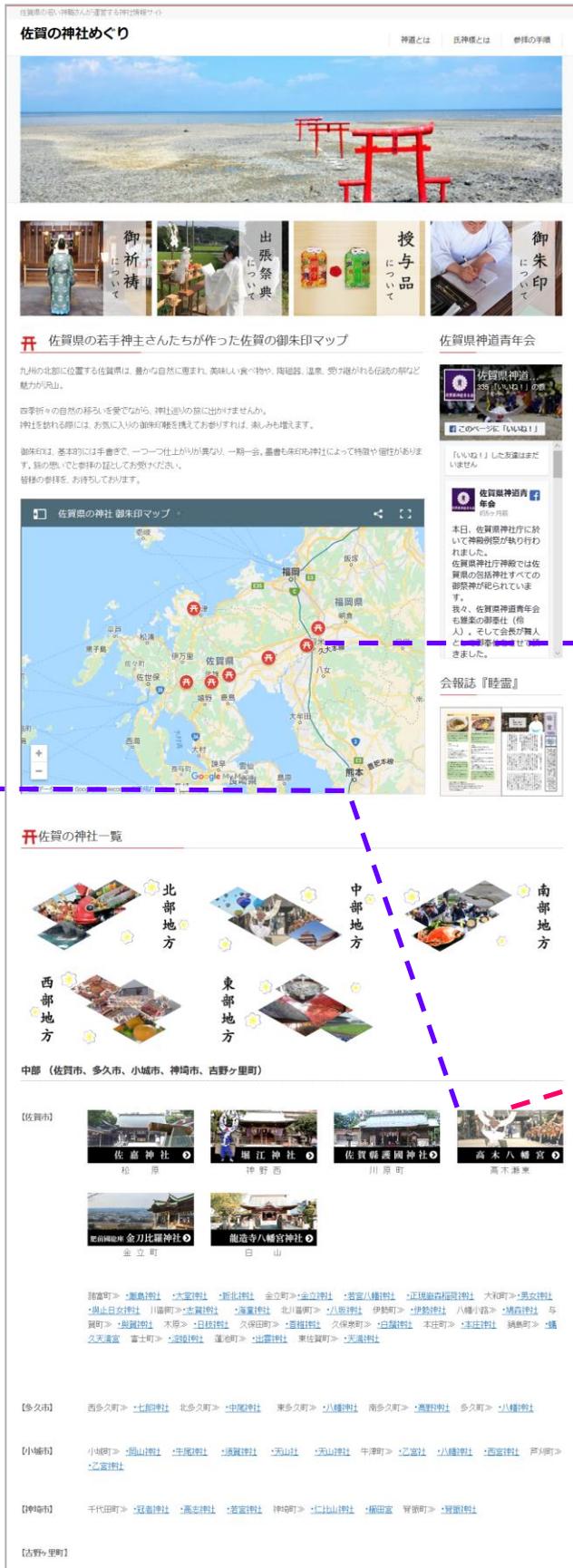
気温の低い中での清掃ではあったが懸命に清掃をしていけば気温など関係なく次第に温かくなってくるのだ。

奉仕の二日目の二十日からはいよいよ皇居内へ。三つのエリアに分かれての清掃。午前中は皇居内の見学。午後からは本格的な清掃。皇居清掃初日は、二の丸庭園での清掃。ここが一番、難しかったと記憶している。なぜなら芝の中に生えている三つ葉（クローバー）のみを除去しなければならぬからだ。さいわい、われわれの団の中には細かい作業が得意な方が多く、私はその方の鎌捌きを見ながら勉強させていただいた。三日目の二十一日は西エリアの清掃。四日目の二十二日は清掃奉仕の最終日。なんとこの日は天皇后陛下のご会釈があるということ

団員の皆さんも緊張していた。清掃奉仕も最終日ということと両陛下のご会釈があるということ、自然と力が入るが、やはり緊張の色というの隠せない。今までは、テレビの中で見ることのできなかった方が私たちの目の前へ。これはとんでもないことである。ご会釈の間になると各団体も真剣な表情となった。われわれの団長は「緊張のあまりうまく言葉が出なかった」とご会釈の後、悔いていたが、それほどすばらしい方であるということを感じ取ったからではないだろうか。私が、団長の立場でも同じだったであろう。

さて、五泊六日の旅の中で四日間が清掃奉仕であったが、他の団体を見て感じたことがある。私たちの団体はやはり清掃経験や土いじりなどが豊富な方が多く、掃除も比較的他の団体と比べるところまいと感じた。皇居の庭園担当の方々もやはり草むしりなど細かい作業の方々が必要ならしくその点ではわれわれはうまく立ち回っていた。今の若い世代の方々、箒を持つことはあっても草むしりなど土をいじるというところは地方だとあるかもしれないが、都市部ではほとんどない。若手の育成にはこういった掃除のやり方から教えていく必要もあるのではないかと感じた。機械などが進歩していくなかで皇居のような場所をいかに人の手で手入れをしていくのかも課題である。





実際にスマートフォンやパソコンでご覧ください。



佐賀の神社めぐり 検索

御朱印マップ・神社公式ページ協賛募集中

御朱印マップ協賛

協賛金 初回 3,000 円

地図上のポイントをクリックすると協賛神社の御朱印画像や情報が表示されます。協賛神社までのルート案内機能も備わっています。

神社公式ページに協賛または寄贈金を納入された神社の広告バナーを作成致します。

神社公式ページ協賛

協賛金 年間 5,000 円

御希望に応じて、様々な情報を掲載することができます。『高木八幡宮』の公式ページを参考にご検討ください



『佐賀の神社めぐり』サイトが
全国表彰されました!!

去る平成三十一年四月十八日、本社本庁大講堂に於いて開催されました「神道青年全国協議会 第七十一回定例総会」の定例表彰式にて、『佐賀の神社めぐり』サイトが、より多く

の人に巡拝してもらおうきっかけとなり波及効果も期待されると評価され、優秀広報賞を受賞致しました。今回、図らずも受賞の荣誉に浴しましたことは身に余る光栄であり、これもひとえに、周年事業に協賛頂きました皆様、日頃より当会の活動をご支援頂いております皆様のお陰

と深く感謝致しております。まだまだ不完全なサイトですが、今後はこの受賞に安住することなく、皆様方のご意見を反映させながら、更なるコンテンツの充実を図りたいと存じます。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

ウェブ 画像 動画 知恵袋 地図 リアルタイム 求人 一覧 ▾

高木八幡宮 X 検索 +条件指定

約4,420,000件

検索ツール ▾

Q 高木八幡宮 佐賀 で検索

高木八幡宮 公式ページ / 佐賀県佐賀市 - 佐賀の神社めぐり
sagaken-jinja.jp/takagihachimangu/ - キャッシュ

社記によれば、平安時代・近衛天皇（久安年中二四五～二五〇）高木越前守藤原貞永という者、高木の庄に下向して高木城を構えていたが、靈験に任せて旭日の形を描いた旗を押しして居城の守護神として八幡大神を奉祀したとあり、これが八幡神社のおこりで...

佐賀県の県庁所在地の運営する神社情報サイト

佐賀の神社めぐり

神護とは 氏神様とは 参拝の手順

高木八幡宮 公式ページ / 佐賀県佐賀市

HOME / 高木八幡宮 公式ページ / 佐賀県佐賀市

境内

のようす

授与品

について

出張祭典

について

御祈禱

について

御祭神

- ・大甕経天皇（仁徳天皇）
- ・菅田天皇（仁神天皇）
- ・高良足姫天皇（神代皇后）
- ・神武天皇

御由緒

社記によれば、平安時代・近衛天皇（久安年中二四五～二五〇）高木越前守藤原貞永という者、高木の庄に下向して高木城を構えていたが、靈験に任せて旭日の形を描いた旗を押しして居城の守護神として八幡大神を奉祀したとあり、これが八幡神社のおこりである。この旭日の形を描いた旗は、高木本家の家紋の十二日御である。なおこの十二日御の家紋は、後に鎌倉幕府が家紋とし、徳川幕府の室中での紋を用いる者もあった。この神護寺の墓所にはこの紋を用いた鎮座氏の墓がある。

年間祭事

- ・四月五日 春祭 / 祈年祭
- ・八月一日 夏祭 / 夏越しの大祓い
- ・十一月五日 秋祭 / 秋季例大祭
- ・十一月二日 高木八幡神社 / 奉立奉納
- ・十二月三十一日 除夜祭 大祓い式
- ・一月一日 元旦祭
- ・一月九日 開土ひつ子祭
- ・一月十日 高木えびす大祭

鎮座地

佐賀県佐賀市高木瀬東二丁目1-2-11
電話番号 0952-30-9044
FAX 0952-30-9615

御社宝

【御社料】

享保3年（1718）式部省月吉村日御直
肥前国遠江守藤原兼直（肥前忠吉の一族）
現在は佐賀県立博物館に所蔵。

【社務所一景】

寛文62年（1666）二代藩主光茂公御達

高木八幡宮 公式ページ / 佐賀県佐賀市

- 出張祭典について / 高木八幡宮
- 御祈禱について / 高木八幡宮
- 高木八幡宮 境内
- 高木八幡宮の授与品

平成三十年度

佐賀県神道青年会 事業活動報告

八月	七月	六月	五月	四月	月
十五日 二十九～三十日	十一日 二十六日 二十七日	九日 十日 十三日	十五日 十六日 三十日	四日 十六日 二十三日 二十五日 二十六日	日
神道青年全国協議会 夏期セミナー 戦争犠牲者慰霊祭並びに祖国復帰祈願祭	西日本豪雨被災神社土砂撤去作業 佐賀県神道青年会神職子弟の集い	台風七号被災神社支援活動 神道青年九州地区協議会 第三回役員会	第六十九回九州各県神社庁連合会 神職総会 佐賀県神道青年会 第二回役員会 佐賀県神道青年会 定例総会	神道青年全国協議会第七十回定例総会並びに全国会長会 第五十八回佐賀県神社関係者大会 佐賀県神道青年会 第一回役員会 佐賀整肢学園七五三奉仕表彰式	事業 業
神社本庁	唐津市 唐津市 佐賀第二地区支部南	平戸市 宮崎県都城市 佐賀県神社庁	佐賀県神社庁 佐賀県神社庁 神埼市神崎町	小城市 佐賀県神社庁 唐津神社 佐賀整肢学園 宮崎神宮	場所
二名	七名 七名 十三名	七名 二名	十八名 十名 六名 六名	二名 九名 十三名 五名 二名	備考



神饌田御田植祭

櫛田宮

禰宜 執行兼正

去る平成三十年六月十三日、神崎市神崎町鶴にて「神饌田御田植祭」が斎行されました。当日は晴天の中、田主様を始め地域の方々の方にご参列賜りました。

最初の祭りであるこの御田植祭は、全国でも同時期に行われている古くから続く年中行事である。その起源は田植え歌を歌いながら田植えをするという風習が農耕儀礼と結びついて祭礼になったという。全国的に有名な御田植祭といえば三重県志摩市の伊雑宮の御田植や大阪の住吉大社の御田植などがあげられる。これらは地域ごとの芸能の要素を含んだ御田植祭となっており、重要無形民俗文化財にも指定されている。

私の地元でもある神崎の地で行われた今回の御田植祭。私自身農業に関わる機会はありませんが、小学校の頃の地域学習で行った田植え体験等でしか稲作に携わったことは無かった。神職になった今、子供の頃とは違った角度で農業に関わることが出来る機会に恵まれ、とても嬉しく思った。

祭事は滞りなく進み、無事に納める事が出来た。その後小さな範囲ではあるが、手で直接田植え作業を行った。小学校の頃を思い出しながら楽しくできたが、時間的な問題もあり、機械を用いて田植え作業を行った。人の手で行うよりも何倍も早く作業をすることが出来る機械を見て少しだけ複雑な気分になったが、減少傾向にある第一次産業の農業においては仕方のないものであると思った。昔から続く伝統を受け継いでいくことも大事であるが、時代とともに形を変化させてでも伝統を紡いでいくことも大事であると考えられる良い機会になった。



台風七号被災神社支援活動

祐徳稻荷神社
権禰宜 池田知史

去る平成三十年七月九日に台風七号で被災された、長崎県平戸市安満岳に御鎮座されます白山比賣神社の復旧清掃活動に行つて参りました。



この神社は安満岳に建立され、山全体が御神体として信仰の対象となつています。神道のみならず、仏教徒からも古くから崇められていた歴史もあり、特に仏教に於いては修行僧達の修験場だった歴史があります。

また、十六世紀になるとこの平戸にはポルトガル船やオランダ船が入りキリスト教が布教され始め、江戸時代に入るとキリスト教は弾圧の対象となつたため、この地のキリスト教信者もその対象になつていました。その際、この白山比賣神社は隠れキリシタン達の信仰の地として使われていました。隠れキリシタン達は、この山の神社や寺院にお参りに行くとき装いながら、白山比賣神社に隠し造



った祠にてキリストへの祈りをささげていました。

歴史的文化財としての価値も高く、ちょうどこの月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」としてユネスコ世界遺産に登録されたばかりでした。

この日の復旧清掃活動は、長崎県神道青年会会員含む神職、氏子や市役所の方々、一般の崇敬者の参加もあり総勢五十名での作業でした。佐賀県神道青年会

からも七名の青年神職が参加いたしました。たくさんの方々の尽力により拝殿の応急処置、片付け、参道の清掃など無事に終えることができました。

今回のこの台風被害だけではなく、このあともずっと続いていくであろう自然災害の被害を受けられた方々に心を寄せて、力を尽くしていかなければと思われました。



神職子弟の集い

祐徳稻荷神社

権禰宜 大島健太郎

平成三十年七月十五日（木）
「神職子弟の集い」が開催された。

今年の開催場所は唐津市にて、まず全体の行程を分ければ、午前の部（鏡神社）午後の部（浜玉町海水浴場）となる。唐津市と言えば、虹の松原や唐津湾が知られているが、一望できる絶景スポットとして鏡山がある。その山は「万葉集」にも登場する歴史のある山だそうだ。今回の舞台である鏡神社はその山の麓に位置している。少し珍しいと思うが、一の宮、二の宮と二社の参道が垂直に交わるように

してご鎮座していて、鎮守の森のように緑の中にとけ込むように佇んでいる。

さて本題にて、はじめに鏡神社にての祈願奉仕体験であるが、これは子供たちを含めた全員参加型の奉仕であるように思う。まず修礼を行うが、「みんな一日神職体験」～お父さんはどんなお仕事をしているのかな？～の配布プリントにそつて、祭典の順序も併せて、お祭りで何を願い、そして実際の格好を纏い奉仕することを、所役を分けて子供たちと一緒に確認した。例えば、修祓の際には、大麻を持ち祓い清める所作。祝詞奏上後に鈴を振って神様の力をお分かちするといった所作。そして最後に玉串を奉る所作といったことなど、それぞれが祭典中に子供たちに所役を任せること或は託すこと、もちろん助

言や見よう見まねのように実際に体験させること、皆が一体となってこそ奉仕体験の意味をなし得ることだと思う。というのも、すぐには意味というものも理解でき難いかもしれないが、体験することによってこそ得られる事柄が、将来に渡って自ずと現れることであると思っ

る。修礼を終え、一行は社務所に戻り稚児衣装というのである。か、地元の地区で使用する貴重な白衣や袴をお借りして、着付け体験をするのであった。そうすることで幾らか身も新たな気持ちで奉仕に向かおうとする意思も少なからず現れたのではないか。子供たちにこういう衣装を着させるような機会もないので新鮮な気持ちでもあった。

いざ本番とまでいかないが、祭典が始まると騒がしかったよ

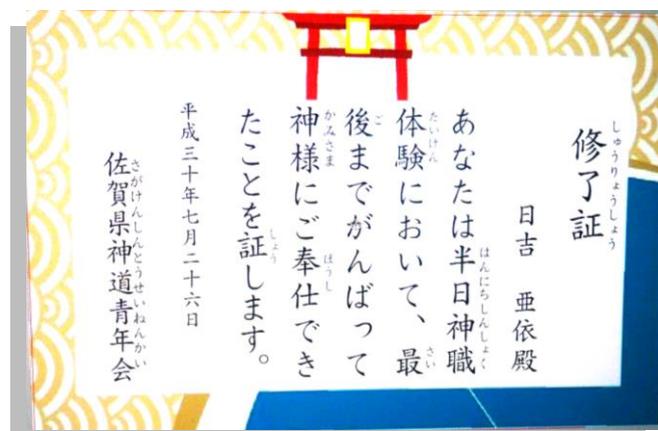
うな、また落ち着かない様子だったであろうか、そういう状態であった子供たちの気持ちも少しずつ変化してきたのではないか。滞りなく祭典を終えることができたのだが、このことも非日常的な空間で普段と異なる環境に身をおいて、さらに自分の父親への日常生活では無意識に取り込まれている神様に日々仕えるということが、改めてこういう場でもって再認識させられたことではないだろうか。

酷暑に耐えうる中でも、無事に午前の部を終えたことで、一気に解き放たれた緊張感をすぐさま安堵感に切り替える早さも、それも子供らしさではないかと思うのであった。そして午後の部へ移るのだが、それもそのはずで待ちに待った浜辺にて海水浴やスイカ割り、そしてバーベキューといったものがある

から切り替えが早いのである。実際に、子供たちを見ていても海に入って遊ぶことが、最も楽しい思い出の一つだったように感じる。

この神職子弟の集いに参加して、これからを担う子供という宝を、昨今からこれ以後も少子化が加速し、また人口減少社会に転じる分岐点に既に差し掛かっているが、これからの将来をどう生きていくかを思いながら、一方で親子または幼い子を見ながら、神職という姿をこれからどう考え、社会に貢献していくかを模索しなければならぬのではないかと思うところである。

この集いに際して御尽力やご配慮等を戴きましたご参加の会員の皆様に感謝致しまして、報告とする。



戦争犠牲者慰霊祭並びに 祖国復興世界平和祈願祭

永世神社
禰宜 梶田 匡祐

去る、平成三十年八月十五日
大堂神社拝殿にて戦争犠牲者
慰霊祭並びに祖国復興世界平
和祈願祭を執り行いました

この祈願祭は、佐賀県神道青年
会が終戦直後の混乱の時より、
各地区支部のご協力を頂きな
がら毎年八月十五日にご奉仕
しているものです。

終戦記念日と言いますと、昭和
十六年十二月に始まり昭和二
十年八月十五日まで約四年間
続いた大東亜戦争が終結とな
った日です。

祭典に参加し平和を考えた
時、私がまず一番に思いつくの
は、原子爆弾を落とされた広島
や長崎です。昭和二十年八月六
日午前八時十五分、広島の上空
で爆発した原爆は、三十五万人

もの犠牲者を出したそうで

す。人々は約四千度にもなる
原爆の熱によりひどい火傷を
負い、町は焼け野原と化し沢
山の大切な命を奪いました。
何の罪もないのに、何故この
ような目にあわなければなら
なかつたのでしょうか。

戦争さえしなければこのよう
なことは起きなかつたので
す。戦争をするには、それな
りの理由があつたのでしょ
う。しかし、どの国も戦争
をしてはいけない事だと分か
つていたはずです。

世界には百九十二カ国もの国
があります。その一人一人の
心が平和だったら争いは起こ
らない。これはとても簡単な
ことのように思えますが、実は

とても難しいことです。まずは
自分自身の意識が大切で、自分
の心が平和であれば周りの人
の心も平和になります。

正午の黙祷につづき、天皇陛
下が御言葉述べられました。
「本日、戦没者を追悼し平和を
祈念する日に当たり、全国戦没
者追悼式に臨み、さきの大戦に
おいて、かけがえのない命を失
った数多くの人々とその遺族
を思い、深い悲しみを新たに
いたします。

終戦以来既に七十三年、国民の
たゆみない努力により、今日の
我が国の平和と繁栄が築き上
げられました。が、苦難に満ちた
住時をしのぶとき、感謝は今な
お尽きることがありません。

戦後長きにわたる平和な歳月
に思いを致しつつ、ここに過去
を顧み、深い反省とともに、今
後、戦争の惨禍が再び繰り返さ
れないことを切に願ひ、全国民

と共に、戦陣に散り戦禍に倒れ
た人々に対し、心から追悼の意
を表し、世界の平和と我が国の
一層の発展を祈ります。」

私は、全ての人々がこの平和
の喜びを分かち合い、平和に幸
福に暮らしていける事を願っ
ています。

最後になりますが、祖国の為に
尊い犠牲となつた方々の御霊
が、どうぞ安らかでありますよ
う、そして、日本と世界の恒久
の平和をお祈りいたします。



歳祝い祈願祭

佐嘉神社
権禰宜 福川明成

平成三十年九月三日、佐賀県神社庁において「歳祝い祈願祭」を御奉仕させていただきました。当日はお忙しい中、神社関係者の方々を始め、目出度く算賀の祝いを迎えられる諸先輩方に御参列をいただきました。佐賀県の神道青年会は全国よりも早くに立ち上がり、七十年という節目を迎える歴史ある会です。それを守り、我々に受け継いできてくださった先輩方への感謝として今回祈願祭を御奉仕させていただきました。



一つとなつていきます。節目を迎えられた先輩方を顧みて、無事息災と大神様への感謝と共に、更に向後の長寿安泰を祈請し、御齡をお祝い申し上げます。佐賀県神道青年会の発足より、神祇を崇め、祭祀を重んじる日本の伝統を奉護すべく、神社関係者が団結して七十年という歴史を築き、今日まで受け継がれてきました。その間の労苦

や苦難はとも言葉に言い表せないと思います。神社を取り巻く環境や社会の情勢は日々変化しています。それでも、これまで先人諸賢の志を受け継ぎ、不断の努力によって神社の尊厳を損なうことなく、発展の礎を築かれました。それを受け継いだ我々は向後、日本の伝統と文化を次代に継承するために尽力し、先人が残してくれた想いを伝えていかなくってはなりません。

今の自分達が活動できるのは支えてきて下さった先輩方のお力のお陰であります。古事記にもある稽古照今の言葉が示すように、先人の足跡は我々会員の指針となります。その足跡を鑑みて我々は更なる団結のもと、神道の護持に努めなくてはなりません。その責務を果たすべく、神社界と神青会の更なる発展と

次の世代へ受け継いでいけるよう尽力していこうと改めて思いました。

末筆ながら、今回御参列いただきました皆様には、無事祭典を納めることが出来たことを会員一同厚く御礼申し上げます。





拔穂祭

八幡宮

宮司

佐藤 美波

去る、平成三十年九月二十六日神埼町鶴東区 有限会社アグリベースにいやま様のご協力のもと、佐賀県神道青年会恒例の御田植祭につづき拔穂祭を執り行いました。

当会は毎年、佐賀県内の御田を御斎田と定めて御田植祭、拔穂祭を行い神宮へ佐賀県代表米の懸税として奉献は基より、県内神社へ新嘗祭の神饌として新穀を奉献させて頂いております。

当日は時折吹く風は強かったものの晴天に恵まれ晴れ渡る秋空の中、斎田隣で神籬祭祀にて斎主宮田彩子会長始め斎員五名、伶人三名でご奉仕させて頂きました。

アグリベースにいやま代表取締役様・地元区長様・生産組合

長様には玉串を奉りご拝礼頂き、近隣の方の多数のご参列も賜わり厳粛且つ清々しい拔穂祭となりました。

六月に行った御田植祭より早四ヶ月弱。田主様の献身的な管理により順調にすくすくと稔の秋を迎え、大きくこうべを垂れた稲穂を祭典後、皆で刈り取らせて頂きました。

ふっと思い出したこと。幼稚園の給食の時間、先生に「お米は1粒も残しちゃいけないよ。」



と言われて「なんで？」と尋ねたら「お米1粒には七人の神様がおんしゃーと。だけん、残した数だけ沢山の神様からバチの当たーとよ。恐かるーがっ」と言われたこと。当時三〜四才の私ですが、この年になってもそのシーンを鮮明に覚えており、そのお蔭でその時からお茶碗のお米を一粒も残さず食べるのは当たり前となっています。幼子の私に大切な事を教えて下さった当時の先生に心から感謝しています。今度私が教える番。青年神職としての自覚をもってこれから担う子供たちに伝えていかねばならないと思っております。食も物も溢れ飽食時代を叫ばれる昨今、この御代に生れ出でて豊かで幸せな私達ですが忘れてはならない自然の恵み・神の恵みへの感謝を改めて再認識する機会となりました。



七五三祭奉仕活動

高木八幡宮
禰宜 大島仁志

平成三十年十一月八日、佐賀市金立町にある「佐賀整肢学園こども発達医療センター」に於いて、日頃神社にお参りする事が困難である七五三を迎えられたお子さん達の為に、毎年ご奉仕させて頂いている七五三祭を、佐賀県神道青年会、会員十名でご奉仕させて頂き、七五三を迎えられたお子さん達、保護者、ご両親や職員の皆様など多くの方々にご参列頂きました。

神事の準備をして、神事が始まると雅楽の音色が祭場に響き渡り、少し緊張された面持ちの



様子でしたが神事が進み、お子さん達のこれからますますの健やかなるご成長を願いました、宮田会長の祝詞奏上や、肥前神楽も奉納され、皆様見入っておられる様子でした。

玉串拝礼では、各年齢の代表のお子さん達が玉串を捧げられていてそれぞれの想いを一生懸命にお願いされているように感じました。

神事も無事に終わり、二百あまりの千歳飴を授与致しまして各年齢ごとに記念写真も一緒に撮らせて頂きました。

千歳飴を持って記念撮影しているお子さん達の表情はとっても嬉しそうで、そんなお子さんを見ていたら私もとても嬉しい気持ちになりました。

毎年ご奉仕させて頂き色々な事を学ばせて頂き、自分自身成長させて頂いている大切な事業だと改めて思いました。

これからも、このような経験を活かし人の為に何が出来るかなどを考えて行動に移していきたいです。



第四十六回神道青年会 九州地区協議会研修会

祐徳稻荷神社

権禰宜 前田英明

去る平成三十一年三月六日から七日に亘り、福岡県で開催されました第四十六回神道青年会九州地区協議会研修会に参加致しました。

宮崎県神道青年会、福岡県神道青年会の皆様には、二日間大変お世話になりましたこと、心より御礼申し上げます。

一日目の雁の巣レクリエーションセンターで開催予定でありました親善野球大会は、生憎の雨により中止となり大変残念に思いましたが、懇親会では九州各県の皆様と、美味しいお酒を酌み交わし、話の尽きない有意

義な時間を過ごさせて戴きました。

諸先輩方には、バシッと決まるストレート球のようなアドバイスや激励を賜り、同じ志を持つ沢山の皆様と心のキャッチボールを交わし、野球大会さんからの非常に爽快で心に残る貴重な時間を過ごすことが出来ました。

二日目の研修会では、宮崎県立看護学校教授 大館真晴先生による、神武天皇の御東征と鳥見山中霊時御親祭についてのお話、宮崎神宮権宮司 黒岩昭彦先生による神武創業の精神についてのお話を賜りました。

二日目の研修会では、沢山の学びがありました。中国儒教から来た親孝行の精神を神武天皇はより日本人に密着する大考と

という言葉で述べられ、八紘一宇の精神を成し遂げるために、具體的に何をすべきかお考えにられました。そして単なる親孝行ではなく、祖先神をお祀りする神祀りの精神を大考とされ、そのお考えは大変日本人に密着するものとなりました。日本最古の歴史書である古事記にも「稽古照今」という四字熟語がありますが、過去の出来事や先人の教えから学び、現在の事象に照らし合わせて教訓を活かすことが大切であるという教えです。大考とは一見当たり前のようなことですが、当たり前のことが難しい世の中です。ですから、神武天皇や先人たちが大切に伝えてくださったその心を改めて後世に伝えていくことが私の仕事である

という使命感が湧き胸が熱くなりました。神道の道は大変歴史深く、生涯学びは終わらないと思います。先ずは身近な家族から、そして沢山の方々に、その心を伝えていくことが出来ればと思います。

二日間、大変貴重な時間を過ごさせて戴きましたこと、心より感謝申し上げます。この日得た事をこれからの神明奉仕に活かしますよう、日々精進して参ります。





東日本大震災並びに
復興祈願祭



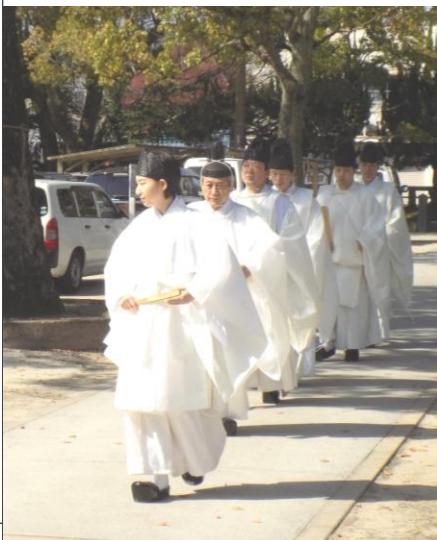
金刀比羅神社
宮司 古川勝茂

去る平成三十一年三月十日、佐賀縣護國神社境内にて、佐賀若楠ライオンズクラブが建立した東日本大震災慰霊碑前に祭壇を設け、第七回目となる東日本大震災慰霊祭並びに復興祈願祭が執り行われた。護國神社徳久宮司をはじめ、職員以下神道青年会の若手神職を含め十名が奉仕し、午後二時半より厳粛に斎行された。祭典が進む中、震災発生時刻の午後二時四十六分には時報に合わせ、祭員・一般参列者など役三十名が一分間の黙祷を捧げた。

未曾有の震災発生より八年の歳月が経ち、本格的な復興・再生に向けての動きが進んでいる一方で、今もなお多くの被災者

が被災地で、また避難先で、依然として不自由な暮らしを続けている厳しい現実があります。困難な状況の中にいる人々が、誰一人取り残されることなく、一刻でも早く平穏な日常の暮らしを取り戻すことができるよう、また復興の歩みが着実に進んでいくよう、被災した地域や人々に心を寄せ末永く寄り添っていくことが大切であると思います。

東日本大震災という大きな教訓を決して忘れることなく、後世へと伝え、祈りを捧げ続けていくことが、我々神職の務めであるうと思えます。



寄贈金納入者御芳名

(順不同 敬称略)

佐賀縣護國神社 宮司 徳久俊彦
 唐津神社 宮司 戸川忠俊
 金刀比羅神社 宮司 古川勝久
 龍造寺八幡宮 宮司 江頭廣宣
 堀江神社 宮司 松中浩泰

佐賀県神道年会七十周年事業
協賛金納入者御芳名

(順不同 敬称略)

與賀神社 宮司 中村良信
 鏡山神社 宮司 本田正博
 八幡神社 宮司 末安千税
 若宮神社 宮司 山邊和之
 正現嶽ノ森稻荷神社 宮司 持永圭子
 妻山神社 宮司 永代龍三郎
 熊野神社 宮司 森義隆
 福母八幡宮 宮司 佐藤美波
 高木八幡宮 宮司 大島明彦
 龍造寺八幡宮 宮司 江頭廣宣
 龍造寺八幡宮 禰宜 江頭慶宣

金立神社 宮司 岡輝彦
 香椎神社 宮司 村田直敏
 高志神社 宮司 田中豊
 仁比山神社 宮司 朝日晃司
 榑田宮 宮司 執行安正
 天山神社 宮司 泉靖雄
 大村神社 宮司 吉岡雄治
 田島神社 宮司 平野良興
 呼子八幡神社 宮司 八幡崇経
 諏訪神社 宮司 松永典彦
 白山神社 宮司 新久田泰之
 堤雄神社 宮司 橋富洋美
 武雄神社 宮司 武雄哲司
 松岡神社 宮司 有森龍弘
 佐嘉神社 宮司 草場昭司
 八幡宮 宮司 黒髮京稔
 庭木神社 宮司 庭木稜威男
 冠者神社 宮司 深堀行則
 八幡神社 宮司 都渡智久
 日枝神社 宮司 野崎洸史
 唐津神社 宮司 戸川忠俊
 妙見神社 宮司 本城敬忠
 金刀比羅神社 宮司 古川勝久
 大堂神社 宮司 石丸正幸

鏡神社 宮司 重藤薫範
 若宮神社 宮司 松園家晴
 千栗八幡宮 宮司 東正弘
 永世神社 宮司 梶田辰則
 熊野神社 宮司 石橋明彦
 日子神社 宮司 木原隆光
 住吉神社 宮司 宮崎和清

佐賀県神社庁をはじめ県内本務神社、
 総代会の皆様には、平素より当会の活動
 につきましてもご理解ご協力を賜り、助成
 金を納入頂きました誠にありがとうございます。
 また、昨年度は佐賀県神道青年会創立
 七十周年の佳節を迎え、記念事業を挙行
 するにあたりご協賛を頂きました皆様、
 助成金とは別に寄贈金を納入頂きました
 皆様、衷心より御礼申し上げます。
 毎年、県内全本務神社並びに総代会様
 には助成金を納入頂いておりますが、誌
 面の都合上、周年事業の協賛金また寄贈
 金を納入頂きました皆様のご芳名を掲
 載し、ご報告とさせて頂きます。